

Hi! アンドレです

社会教育指導員
アンドレ・エスタニスラオ

私はテレビでワールドカップの試合を見ていたとき、5月31日と6月1日に行われた田村地区中体連総合大会について思い出しました。

田村地区の中学生たちは、試合のため各会場に行きました。私はたくさんの生徒を見ることができ、とてもうれしく思いました。特に浮金中と小野中の生徒が、互いにスポーツマンシップと固い友情でプレーする姿はとても素晴らしかったです。

私は最初に、バレーボールと野球を見るために町民体育館へ行きました。そして、サッカーと剣道を見るために船引へ行き、最後に三春と大越でソフトテニスの試合を見ました。本当は全ての会場に行きたかったのですが、時間に制限があったため私は行くことができませんでした。私は選手のみなさんととても上手にプレーし、最善を尽くしている姿がはっきりとわかりました。

フィリピンの学校にもスポーツ大会があります。最も人気があるスポーツはバスケットボールです。フィリピンの学生たちは、スポーツで学校代表選手となることをとても誇りに思っています。日本人と同じで、フィリピン人もスポーツが大好きです。フィリピンの学校では、健康的そして活動的になるた

めにスポーツをすることを先生からすすめられます。私は日本、そしてフィリピンの学生たちが、勉強だけでなくスポーツをとおして健康な体をつくるのが大切であると考えます。私はスポーツトレーニングをするのに適した施設を持つ、国際的な私立学校に通うことができたのでとても幸運でしたが、フィリピンのほとんどの公立学校にはこれらの施設がありません。しかし、適切な設備がなくてもフィリピンの学生たちが常に最善を尽くしている姿は、非常に印象的です。



小野中学校の男子バレーボール部員と

ふるさと小野町会 ふれあい通信

「ふるさと」は遠きに

ありて思ふもの

蒲生 吉夫

(飯豊出身)

「ふるさと」は遠きにありて思ふもの「は、見事に人の気持ちを表していると思います。」

ふるさとの飯豊を出てからの生活のほづがはるかに長くなってしまい、半世紀近くになってしまいました。

そのような頃になると、道端に生えている草花を見ても、鳥のさえずる鳴き声を聞いても、作物が青々と一面を埋める畑を眺めても、ふるさとが思い浮かびます。

この千葉の地は、飯豊よりかなり早い時期に、田植えが始まります。その田んぼを見ると、私が小さい頃の田植えの情景が、つい昨日のように思い浮かんできます。横一列に並び十文字に田んぼに線を引いたところに苗を植えていき、その前方に稲わらで結んだ苗の束を、畦から得意になって投げ入れたことを覚えています。今は全て機械で田植えが行われますが、家畜と人の手で一本一本（正確には数本ずつ）苗を植えていた頃の情景が懐かしく目に浮かんで

きます。

二十一世紀は、「心の時代」と言われています。超スピードの時代、なんでも手に入れられる時代でもあります。東京に行くのに、汽車で8時間近くかかっていたことがとても信じられませんが、今なら8時間もあれば、外国まで行ってしまいます。ジェット機、新幹線、自動車は本当に、地球も日本もまるごと身近なものとなってしまいました。情報もテレビ、パソコン、食べ物も・・・どれもこれも手に入れられるようになってきました。

それにもかかわらず、今は何か物足りない、何か心が満たされない、心のむなしさも感じやすい、感じる時代でもあるのではないのでしょうか。それが、心の時代とも言われるゆえんではないかと思えます。

このような時代には、自然に親しみ、ふるさと、人間味が感じられるふれあいがとても大切になり、求められていると思います。このふるさと小野町会がますます「人がふれあう」役割の一端を担うことを願っています。

